

中 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
1	基礎研究	2
2	研究の進め方	2
3	研究構想図	3
V	研究内容	4
1	音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための 発問の工夫	4
2	対話的に学ぶ場面設定の工夫	4
3	音楽的な見方・考え方を働かせた対話的な学びを実現する ための具体的な工夫を生かした実践事例	5
VI	研究の成果と課題	23
1	研究の成果	23
2	研究の課題	24

音楽的な見方・考え方を働かせた 対話的な学びの実現に向けた指導の工夫

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）において、音楽科で育成する資質・能力は「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と示された。また、この資質・能力を育む際には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことや、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせながら深い学びに向かう過程を重視した学習の充実を図ることが重要であるとした。

研究主題の検討に先立ち、主体的・対話的で深い学びについて、研究員各自の学習指導を振り返ったところ、主に「対話的な学び」における課題が明らかとなった。「対話的な学び」については、「教員と生徒との対話」、「生徒同士の対話」、「音楽との対話」、「自己内対話」などの形態があると考えられるが、特に、生徒同士の「対話的な学び」に係る具体的な課題として、次のような内容が挙げられた。

- 対話の中で、生徒が音楽的な見方・考え方を十分に働かせられていない。
 - ・ 生徒が根拠の曖昧な意見を述べ合うことに終始し、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする状況まで至らない。
- 対話的な学びが音楽表現の深まりにつながらない。
 - ・ グループ等で活発な対話を行った後に、生徒が自らの音楽表現を試行錯誤したり、音楽を改めて聴いたり、省察したりする時間を十分に確保しようとしないうえ、音楽表現の深まりが明確に表れない。
- 音楽の学びにつながる対話ができていない。
 - ・ 自分の意見をもてない生徒がおり、班長等の意見に従うような形になることがある。
 - ・ 対話の内容が音楽以外の事柄にそれ、対話の目的を達成できないことがある。

このような状況は「平成 29 年度 教育研究員研究報告書 中学校『音楽』」（東京都教育委員会）においても、「グループによっては対話が深まらない状況が見られた」と指摘されており、今後検討すべき課題として挙げられている。そこで、本部会では、以上の状況を基に具体的な授業改善について検討した。その結果、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせた、生徒同士の「対話的な学び」を実現する授業改善が必要であると考えた。

そこで、本研究では、研究主題を「音楽的な見方・考え方を働かせた対話的な学びの実現に向けた指導の工夫」と設定した。なお、今年度は、「対話的な学びによって音楽表現が深まる」ことに重点を置くこととし、表現領域に特化して研究を進めた。

Ⅱ 研究の視点

研究主題に迫るため、次の二つの視点から効果的な指導法を検討し、検証授業による実践研究を行う。

○ 音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫

対話的な学びの場面において、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるよう、発問を工夫する。また、題材を通して、意図的・計画的に発問を重ねる。

○ 対話的に学ぶ場面設定の工夫

題材全体を主体的・対話的で深い学びの視点から捉え、題材全体の計画と対話的な学びの目的や形態とを照らして考え、対話的な学びの場面設定を工夫する。

Ⅲ 研究仮説

題材全体を主体的・対話的で深い学びの視点から捉え、以下の二点を工夫することにより、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶことができるようになり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができるであろう。

○ 音や音楽から知覚したことと感受したこととを結び付けたり、音や音楽を自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けたりできるように発問を工夫するとともに、題材を通して、意図的・計画的に発問を重ねる。

○ 題材全体の計画と対話的な学びの目的や形態とを照らして考え、対話的な学びの場面設定を工夫する。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

次の文献等を基に、音楽科において育成する資質・能力や「音楽的な見方・考え方」、音楽科における主体的・対話的で深い学びの在り方等について研究・協議を行った。

- ・ 「中学校学習指導要領」（平成 29 年 3 月）
- ・ 「中学校学習指導要領解説音楽編」（平成 29 年 7 月）
- ・ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）
- ・ 「平成 29 年度 教育研究員研究報告書 中学校『音楽』」（東京都教育委員会）

2 研究の進め方

文献等及び研究員各自の指導の状況から課題を整理することにより、基礎研究を行った。この基礎研究を踏まえ、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための具体的な授業改善の在り方について検討し、研究仮説を立てた。その上で、検証授業において、音楽的な見方・考え方を働かせながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導であるか検証した。なお、検証に当たっては、音楽表現の深まりに着目するとともに、育成する資質・能力につながる「対話的な学びの姿」をあらかじめ想定し、授業結果と比較することにより行った。

3 研究構想図

【研究仮説】

題材全体を主体的・対話的で深い学びの視点から捉え、以下の二点を工夫することにより、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶことができるようになり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができるであろう。

- 音や音楽から知覚したことと感受したことを結び付けたり、音や音楽を自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けたりできるように発問を工夫するとともに、題材を通して、意図的・計画的に発問を重ねる。
- 題材全体の計画と対話的な学びの目的や形態とを照らして考え、対話的な学びの場面設定を工夫する。

表現領域における指導の工夫

音や音楽との出会い

音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫

- ① 音や音楽から知覚したことと、音や音楽から感受したことを結び付けることができる発問
- ② 音や音楽を自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けることができる発問

対話的に学ぶ場面設定の工夫

- ① 知覚・感受を根拠に、どのように表現するかについて、個人の意見をもつ場面を位置付ける。
- ② 対話の目的を教員が生徒に明示することで、見通しをもたせる。
- ③ 対話の後に、生徒が自らの音楽表現を試行錯誤したり省察したりする場面を位置付ける。

○ 自分の考えをもつ
【音楽との対話】
【自己内対話】

○ 他者の考えを知り、
自分の考えを深める
【生徒同士の対話】
【教員と生徒との対話】

○ 音楽表現を試行錯誤
して課題を解決する
【音楽との対話】
【教員と生徒との対話】

○ 省察して自分の考え
を再考する
【自己内対話】

○ 音楽表現を生み出す
【生徒同士の対話】
【音楽との対話】

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成

V 研究内容

1 音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」である。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）において、「子供たちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる」とされているように、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせるためには、教員の何らかの働き掛けが必要である。本研究では、教員の働き掛けとしての発問を、以下の二つに分類した。

○ 音や音楽から知覚したことと、音や音楽から感受したことを結び付けることができる発問

○ 音や音楽を自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けることができる発問

この二種類の発問を、表現の創意工夫や表現の技能と結び付けて吟味し、意図的・計画的に、題材全体に配置することにより、音楽的な見方・考え方を働かせた対話的な学びを実現するとともに、生徒の音楽表現を深めていくことが期待される。

2 対話的に学ぶ場面設定の工夫

中学校学習指導要領解説音楽編（平成 29 年 7 月）では、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも 1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。」とされ、題材など内容や時間のまとまりの中で、「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか」等の視点から授業改善を進めることが示されている。

また、対話的な学びには、「教員と生徒との対話」、「生徒同士の対話」、「音楽との対話」、「自己内対話」など、多様な形態が考えられる。さらに、対話的な学びの目的としては、「自分の考えをもつ」、「他者の考えを知り、自分の考えを深める」、「音楽表現を試行錯誤して課題を解決する」などが考えられる。

本研究では、題材全体を主体的・対話的で深い学びの視点から捉え、題材全体の計画と対話的な学びの目的や形態とを照らして考え、対話的な学びの場面の設定を以下の三点から工夫する。

○ 知覚・感受を根拠に、どのように表現するかについて、個人の意見をもつ場面を位置付ける。

○ 対話の目的を教員が生徒に明示することで、見通しをもたせる。

○ 対話の後に、生徒が自らの音楽表現を試行錯誤したり省察したりする場面を位置付ける。

このような場面設定の工夫により、対話の内容を音楽的な事柄に焦点化し、生徒一人一人が音楽的な見方・考え方を十分に働かせて根拠をもって発言できるようになると考えた。また、試行錯誤の場面や省察の場面の設定は、学びの深まりをつくりだすだけでなく、音楽表現の深まりにもつながることが期待される。

3 音楽的な見方・考え方を働かせた対話的な学びを実現するための具体的な工夫を生かした実践事例

(1) 実践事例 1

ア 題材名 曲想と歌詞の内容との関わりを生かして合唱表現を創意工夫しよう
(第1学年)

イ 題材の目標

- ・曲想や歌詞の内容に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・音楽を形づくっている要素(旋律、テクスチュア、強弱)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する。
- ・曲想と音楽を形づくっている要素(旋律、テクスチュア、強弱)や歌詞の内容との関わりについて、既習事項を生かして理解するとともに、曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な技能(発声、言葉の発音、身体の使い方)を身に付けて歌う。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】曲想と音楽を形づくっている要素(旋律、テクスチュア、強弱)や歌詞の内容との関わりについて、既習事項を生かして理解する力 ○【技能】曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能	○音楽を形づくっている要素(旋律、テクスチュア、強弱)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する力	○曲想や歌詞の内容に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度

エ 中学校学習指導要領(平成29年3月)との関連

【A表現】(1) ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕 旋律、テクスチュア、強弱

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 曲想や歌詞の内容に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素（旋律、テクスチュア、強弱）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ② どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。	① 曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。

カ 指導観

本題材では、混声三部合唱曲「Let's search for tomorrow」を教材として、1学年で初めて混声三部に取り組み、合唱表現を深める学習を行う。曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組めるよう、本研究の仮説を基に、生徒が自己の考えをもつ場面、生徒同士で対話し自らの考えを深める場面、生徒が自ら音楽表現を生み出す場面、自己の変容を振り返る場面を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。

一人では表現することのできない合唱を通して、自ら音楽表現の創意工夫を見いだす楽しさや、仲間と共に音楽を作り上げていく喜びを味わいながら、思いや意図をもって音楽表現を創意工夫する姿勢を育みたい。

キ 本題材における具体的な指導の工夫

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・生徒が最初に音楽と出合う場面で、知覚・感受を支えに音楽を捉えることができるよう、「これまでの学習で学んだことを生かして、この曲の特徴や感じたことをワークシートに箇条書きし、発表しましょう。」と発問する。
- ・知覚・感受したものと具体的な表現の工夫とを結び付けるため、「感じたこととその理由を基に、何をどう工夫すると、この曲にふさわしい表現が深まると思いますか。」と発問する。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・教員と生徒との対話により、生徒の意見を知覚と感受に整理し、その結び付きを確認した上で、具体的な表現の工夫について個人の意見をもつ場面を設定する。
- ・具体的な表現の工夫について試行錯誤する場面を設定するとともに、学習の成果を確認して自己評価を行い、お互いに共有する省察場面を設定する。

ク 題材の指導計画（全5時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 指導の工夫	評価規準（評価方法）
1	◆音楽を形づくっている要素の働きを捉え、楽曲全体の雰囲気や特徴をつかむ。 ○曲想に関心をもち、楽曲の雰囲気をつかむ。 ・範唱を聴き、どのような合唱表現をしたいか自分の考えをもつ。	音楽を形づくっている要素（旋律、テクスチュア、

	発問の工夫①【知覚・感受を結び付ける発問】 対話場面の工夫①【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 ・自己到達目標を設定する。 ・全体のバランスを考えてパートを分け、パートに分かれて歌う。	強弱)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。【創一①】(観察、ワークシート)
2・3	◆音楽を形づくっている要素を生かして、表現を創意工夫する。 ○曲想を生かした音楽表現について、演奏しながら自分の考えを深め、歌唱表現を創意工夫する。 ・どのように歌うと曲にふさわしい音楽表現ができるかクラス全体で考え、実際に歌ってみる。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・パートごとの発表を聴いたり、混声三部合唱の響きを実際に歌ったりすることで音楽の変化を感じ取り、生徒同士で対話して自分の意見を深める。 対話場面の工夫①【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】	曲想や歌詞の内容に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関一①】(観察)
4 (本時)	◆音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との関わりを生かして、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、思いや意図をもって合唱する。 ○音楽を形づくっていると歌詞やイメージとの関わりを考え、音楽表現を創意工夫する。 ・音楽を形づくっていると歌詞やイメージとの関わりから、どのように歌うのかグループで考え、実際に歌って試す。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 対話場面の工夫②【対話目的の明示】 ・お互いに意見を交換したり、グループで練習したことを発表したりして自分以外の人の考えに触れ、再度自分の考えを振り返る。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。【創一②】(観察、ワークシート)
5	◆楽曲に対する思いを確認し、表現を創意工夫しながら、合唱の豊かな響きを味わう。 ○歌詞が表す情景や心情、曲想を生かして曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う。 ・前時までを振り返り、音楽の要素(旋律、テクスチャ、強弱)や曲に対するイメージをもって、合唱表現をする。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・学習の成果を確認し、自己評価を行うとともに、お互いに共有する。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。【技一①】(観察)

ケ 本時（全5時間中の第4時間目）

○ 本時の目標

音楽を形づくっている要素と歌詞の内容との関わりを生かして、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、思いや意図をもって合唱する。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 指導の工夫	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	○本時の学習の見通しをもつ。 ・前時までの学習を確認し、前時に書いた今回の目標を確認する。	・前回、知覚・感受を基に個人の意見を考えた場所について、全体で歌って確認する。	

展開 (30分)	○グループで歌いながら、歌詞や楽曲の雰囲気にながさしい表現を探る。 ・1グループ5名から6名で、歌って試しながら、各自の意見を踏まえて、曲にながさしい歌い方を考える。 ※ ここで想定される生徒の対話的な学びの詳細については、「本時で期待する対話的な学びの姿の例」を参照のこと。	発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・「38小節目からのクレシェンドは、どう演奏すれば各自のイメージになが付けられるだろう。」 対話場面の工夫②【対話目的の明示】 ・「歌詞、クレシェンド、各自のイメージをよりよく表現するために、グループで練習しましょう。歌いながら、自分のイメージと比べましょう。」 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・「poco a poco cresc.」の意味を確認し、気持ちの変化を、ハーモニーの変化とあわせて注目するよう助言する。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・各グループの工夫を知覚・感受できるように支援して自分の工夫と比較させ、表現を見つめ直すよう促す。	どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にながさしい音楽表現を創意工夫する。【創一②】（観察、ワークシート） 《評価のポイント》 A：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように、知覚・感受の関わりについて考えながら何度も強弱、テクスチュアを工夫している。 B：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように何度も強弱、テクスチュアを工夫している。 《Cと判断される生徒への手だて》 強弱・テクスチュアの具体的な創意工夫を提示し、活動できるように働き掛ける。
まとめ (10分)	○本時の振り返りを行う。 ・練習したことを基に全員で歌う。 ・本時の目標を確認し、自己評価を行う。自己評価を踏まえ、次時の目標を設定する。	・目標を再確認し、達成することができたか確認する。	

○ 本時で期待する対話的な学びの姿の例

生徒A「クレシェンドの開始は暗くて悲しい感じじゃない？」 生徒B「そうそう、大雨が降ってる、みたいな。」 生徒C「私は、悲しいというより、スタートを待っている、みたいな感じだと思った。」 生徒B「どっちかな。とりあえず、1回歌って確認してみようか。」 (歌う) 生徒A「そうか、悲しいというより、これから行くぞって決意かな。」 生徒B「雨のイメージもいいと思ったけど。後半は雨がやんで明るくなっていくイメージ、曲に合ってると思うな。」 生徒C「じゃ、クレシェンドの前のピアノの部分は、雨の中、決意をもってスタートを待っていて、クレシェンドするにつれて雨がやんで、明るくなっていく感じでどう？」 生徒A「それで、やってみよう。」 (歌う) 生徒B「イメージには合ってるけど、歌がそうになってないね。」 生徒A「クレシェンドが、雨が晴れるというより、まだ雨がやまない感じだね。明るくない。」 生徒C「音が低いところのクレシェンドを、もっと声を響かせて明るい声にしたらどうかな。」 (歌う) 生徒A「ちょっとだけイメージになが付いたね。もう少し試してみようか。」

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・ 二種類の発問を題材計画に組み込むことで、音楽を根拠に対話的に学ぶことを、生徒に明確に伝えることができた。その結果、生徒から「長調に戻ってクレシェンドした『さがしにゆこう』は、走り抜ける感じで、笑顔で明るく歌う。」等の意見が出された。
- ・ 主な発問だけでなく、グループの実態に応じた補助発問等についても、本研究の仮説に基づいて準備しておく必要があると感じた。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・ 「自分の考えをもつ→グループで歌って試す→グループ内で意見を共有し、試しながら考えを深めたりする→他のグループの発表を聴き、自分の考えを振り返る→再度歌って試す」という対話場面の流れを設定することで、生徒は、「クレシェンドはだんだん明るくなるように、たくさん吸った息を全て使い切るように歌ってみよう。」等、知覚・感受を基に各自の思いや意図を生かして表現の工夫を考え、試行錯誤しながら歌うことができた。

(2) 実践事例 2

ア 題材名 歌詞の内容と曲想との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かして、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫しよう（第3学年）

イ 題材の目標

- ・ 曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・ 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチュア、強弱）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図を持ち、音楽表現を創意工夫する。
- ・ 曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりについて、既習事項を生かして理解するとともに、曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、身体の使い方）を身に付けて歌う。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりについて、既習事項を生かして理解する力 ○【技能】曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能	○音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチュア、強弱）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図を持ち、音楽表現を創意工夫する力	○曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度

エ 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）との関連

【A表現】(1)

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕

音色、旋律、テクスチャ、強弱

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ、強弱）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ② どのように歌うかについて思いや意図を持ち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。	① 曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。

カ 指導観

本題材では、「あなたへー旅立ちに寄せるメッセージ」を教材として、生徒一人一人が、曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりを合唱で表現するために、どのように創意工夫するかについて思いや意図を持ち、教員や友達、作品と対話しながら、実際に表現を創意工夫するとともに、思いや意図を実現するために必要な技能を身に付けていく。生徒は、対話的な学びを通して、音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ、強弱）の知覚・感受と技能面の工夫を結び付けながら、思いや意図を実現する。その過程を通して、歌唱表現を深める楽しさを体感させたい。

キ 本題材における具体的な指導の工夫

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・生徒の知覚・感受を促すため、繰り返される旋律と歌詞との関連に焦点化して発問する。
- ・知覚・感受したことと具体的な表現の工夫とを結び付けるため、「歌い方をどのように工夫すると、みんなが感じたり捉えたりした曲の特徴やよさが生かされますか。歌いながら何度も試してみましょう。」と発問する。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・具体的な演奏の工夫について、ワークシートに個人の考えを記入し、クラス全体で共有してから、各グループで歌唱しながら対話的に試行錯誤する場面を設定する。
- ・対話的に学ぶ場面のたびに、対話の目的を板書して明示する。
- ・歌唱しながら対話的に試行錯誤する場面において、「歌ってみて、実際に音が高くなっているから、最初、盛り上がる感じを受けたんだね。」等と助言し、見通しをもたせる。

ク 題材の指導計画（全5時間扱い）

次	時	◆ねらい	○学習内容	・学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
1		◆曲想を捉え、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解しながら歌う。				
	1・2	○曲想を捉える。 ・範唱を聴き、曲想を捉える。曲の特徴や雰囲気を発表する。 ○声部の役割を理解しながら、自分が担当するパートの旋律を歌えるようにする。 ・パートに分かれて旋律の音程や構成を捉える。 ・楽譜から捉えた曲の特徴、曲の構成、要素について把握したことを生かして、パートごとに練習を行う。 発問の工夫①【知覚・感受を結び付ける発問】 ・パートごとに歌唱を発表し合う。自分のパートの発表でない生徒は他パートの発表を聴き、アドバイスをする。 ・合唱し、主旋律の動きと全体の響きを確認する。				曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察） 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチュア、強弱）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。【創－①】（観察）
2		◆歌詞の内容や曲想との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。				
	3	○歌詞の内容を理解する。 ・範唱を聴き、1番と2番の歌詞の内容の違いについて考える。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ○歌詞の内容を歌唱で表現する。 ・1番を歌い、教員と対話しながら歌唱表現を創意工夫する。 ・ユニゾン部分、主旋律の動き、オブリガート、ハーモニーの響きについて確認する。 ○1番の歌詞の内容との違いを考え、2番の歌唱表現を創意工夫する。 ・どのように創意工夫して表現するか個人で考える。 対話場面の工夫①【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 ・生活班（6～7名）で意見を発表し合い、共有する。お互いに理解できるよう、意見について質問・確認を行う。 対話場面の工夫②【対話目的の明示】 ・練習CDを用い、話し合いでの意見を思い出ししながら班ごとに、2番を創意工夫しながら歌う。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・いくつかの班の発表を聴き、創意工夫を共有する。				曲想と声部の役割や全体の響き、歌詞の内容との関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察、ワークシート） どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。【創－②】（観察、ワークシート）
	4（本時）	○歌詞の内容と曲想との関わり、声部の役割や全体の響きとの関わりを考え、表現を創意工夫する。 ・楽譜の指示（「決然と」「輝いて」）に基づいて、どのような工夫をして歌い分けるか、考える。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・班で意見を発表し合い、共有する。お互いが理解できるように、意見について質問したり確認したりする。 対話場面の工夫②【対話目的の明示】 ・練習CDを用い、話し合いでの意見を思い出ししながら班ごとに練習する。				どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。【創－②】（観察、ワークシート）

	対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・いくつかの班の発表を聴き、創意工夫を共有する。 ・自己評価をし、成果と課題を明らかにする。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	
5	○前時までの学習内容を振り返り、創意工夫して歌う。 ・前時までの学習内容を振り返り、全体で練習をする。 ・「あなたへー旅立ちに寄せるメッセージ」の歌詞を表現しながら合唱するために、どのように創意工夫して表現するか、個人で考えをまとめる。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。【技－①】（観察、演奏）

ケ 本時（全5時間中の第4時間目）

○ 本時の目標

歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 指導の工夫	評価規準（評価方法）
導入 (10分)	○前時の復習をするとともに、本時の学習の目標を知り、学習の見通しをもつ。 ・プリントを見直してから合唱する。		
展開 (35分)	○歌詞の内容と曲想との関わり、声部の役割や全体の響きとの関わりを考え、表現を創意工夫する。 ・楽譜には「時の女神よ」は「(決然と)」、「手と手をつなぎ」は「(輝いて)」との指示が楽譜にあるが、どのような工夫をして歌い分けるか、考える。 ※ ここで想定される生徒の対話的な学びの詳細については、「本時で期待する対話的な学びの姿の例」を参照のこと。 ・班で意見を発表し合い、共有しながら、練習CDを用いて、班ごとに、2番を創意工夫しながら歌う。 ・いくつかの班の発表を聴き、工夫を共有する。	・楽譜では、「時の女神よ～」と「手と手をつなぎ～」はどのような違いがあるか考えさせる。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・「今歌ったように、『決然と』と、『輝いて』の部分は、転調していますが、ほぼ同じです。ほぼ同じですが、少し違う部分もあります。楽譜を見ながら違うところに注目したりして、どう工夫して歌い分けると、みんなが感じた曲の特徴やよさが生かされますか。歌いながら考えましょう。」 ・机間指導を行い、音を合わせることはばかりではなく、話し合いで決めた工夫を実践できるようにするよう助言する。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。【創－②】（観察、ワークシート） 《評価のポイント》 A：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように知覚・感受の関わりについて考えながら何度も音色、旋律、テクスチュア、強弱を工夫している。 B：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように何度も音色、旋律、テクスチュア、強弱を工夫している。 《Cと判断される生徒への手だて》 他の人の意見を生かして活動できるように働き掛ける。

まとめ (5分)	○本時の振り返りを行う。 ・自己評価をし、成果と課題を明らかにする。 ・全員で合唱する。	対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ・成果と課題を基に、まとめとして歌うよう促す。	
-------------	--	---	--

○ 本時で期待する対話的な学びの姿の例

生徒A「決然って何？」 生徒B「はっきりってことじゃない？」 生徒C「なんか、誰かに質問したり、お願いしたりしてる歌詞だね。まずは歌ってみようか。」 (歌う) 生徒B「お願いしてる感じになってた？」 生徒A「分かんない。そもそも、お願いする感じって、どう歌えばいいの？」 生徒B「ここにだけある、オブリガートを工夫して歌ったらどうかな？」 生徒C「祈っている感じ？女神様！って感じで。」 生徒B「そうそう、だから、教会で祈っている感じで、柔らかに歌ってみたい？」 (歌う) 生徒A「主旋律と対照的な感じでオブリガート歌ったら、祈る感じに聴こえそうだね。それに比べると、「輝いて」は、そこから転調して音が上がっているから、それを生かして輝いた感じにしようよ。」 生徒B「さらに明るくなっているよね。音が高くて歌うのが辛いけど。」 生徒C「辛そうに歌うと明るくないよね(笑)。ちょっと弾むように『てとてをつなぎ』を歌ったら輝いた感じになるかも。」 生徒B「アクセントも付いてるしね。子音をはっきりさせたらいいんじゃない？」 (歌う) 生徒A「これでいいのかな。発表の時に、伝わるかどうか、みんなに聞いてみよう。」

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・発問の際に、知覚・感受したことと技能を関連付ける表を板書して考えさせたことで、話合いの内容が明確になり、生徒は、知覚・感受と自己のイメージを関わらせながら、積極的にグループで表現の創意工夫に取り組むことができた。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・グループ学習の前に個人で考える時間を設定したため、『『はりさける』の『はり』で音が上がっているの、感情が盛り上がっているように感じる。歌うときは音の上がり方を意識しながら、次の言葉にうまくつながるように、息の流れを止めずに歌う。』、『piú f』と書かれた『手と手をつなぎ』は、前のフレーズの問い掛けに答えている感じがするので、答えるようにはっきりと歌う。』等、一人一人が課題に対して自分の考えをもつことができた。内容に個人差はあったが、話合いの中で仲間疑問をぶついたり相手の意見に質問したりして対話により自らの考えを深めようとする姿が見られた。
- ・実際に歌って試してみる前に、グループ内で共通理解が図られていないと、練習の際に振り返りがなく、単に歌うことを繰り返してしまうことが分かった。歌う前に、「ここをこう工夫して歌うと、このような感じになるはずだ」とグループ全員でしっかりとイメージをもつこと、歌い終わったらイメージのような歌になっていたか振り返りをする、などの手順を説明する必要がある。

(3) 実践事例 3

ア 題材名 各パートの役割を生かして、アルト・リコーダーでアンサンブルをしよう
(第2学年)

イ 題材の目標

- ・音色、旋律、テクスチャ（各声部の役割と全体の響きとの関わり）に関心をもち、曲想を生かした音楽表現を創意工夫して演奏する学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する。
- ・曲想と音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチャ)との関わりについて、既習事項を生かして理解するとともに、曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（息の使い方、身体の使い方、運指）及び全体の響きや各パートの音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身に付けてアルト・リコーダーを演奏する。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】曲想と音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチャ)との関わりについて、既習事項を生かして理解する力 ○【技能】曲想を生かした音楽表現をするために必要な息の使い方、身体の使い方、運指などの技能及び全体の響きや各パートの音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能	○音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する力	○音色、旋律、テクスチャ（各声部の役割と全体の響きとの関わり）に関心をもち、曲想を生かした音楽表現を創意工夫して演奏する学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度

エ 中学校学習指導要領（平成29年3月）との関連

【A表現】(2) ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能 〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕 音色、旋律、テクスチャ
--

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 音色、旋律、テクスチャ（各声部の役割と全体の響きとの関わり）に関心をもち、曲想を生かした音楽表現を創意工夫して演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。	① 曲想を生かした音楽表現をするために必要な息の使い方、身体の使い方、運指などの技能を身に付けて演奏している。 ② 全体の響きや各パートの音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

カ 指導観

本題材では、各パートの役割と全体の響きとの関わりを理解し、表現を創意工夫しながら、アルト・リコーダー三重奏「星の世界」を学習する。以前のアルト・リコーダー二重奏の学習経験を生かし、各パートの役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して演奏する学習にグループで取り組む。それにより、思いや意図を実現するために必要な技能を身に付けながら、表現を創意工夫してほしいと考える。

本研究の仮説に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、音楽活動の楽しさを体験させ、特に、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養いたい。

キ 本題材における具体的な指導の工夫

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・生徒の知覚・感受を促すため、「曲について、どんな感じがしますか。それは音楽がどのようになっているからですか。」と発問する。
- ・知覚・感受したことと具体的な表現の工夫とを結び付けるため、「この曲にふさわしい表現を深めるために、感じたこととその理由を基に、何をどのように工夫したいですか。」と発問する。
- ・生徒の思考に沿った発問計画を教材研究に基づいて策定し、発問を行う。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・中間発表の場面で、いくつかのグループの工夫を共有する際に、「何をどのように工夫しているのか、なぜ工夫しているのか」をポイントに聴くよう指示し、生徒にその後の対話の見通しをもたせる。
- ・具体的な演奏の工夫について、ワークシートに個人の考えを記入し、グループ内で共有してから対話的に試行錯誤する場面を設定する。
- ・グループでの試行錯誤の後、個人の振り返りをワークシートに記載させることで、省察場面を設定する。

ク 題材の指導計画（全5時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 指導の工夫	評価規準（評価方法）
1 ・ 2	◆曲想を捉え、各パートの役割を感じ取って主体的に自分のパートを演奏する。 ○「星の世界」の曲想や各パートの音楽的な特徴を捉える。 ・範奏を聴き、曲の特質や雰囲気についてワークシートに記入する。記入後、グループやクラスで意見を共有する。 <u>発問の工夫①</u>【知覚・感受を結び付ける発問】 ○各パートの役割を考えながら、自分のパートを演奏する。 <u>対話場面の工夫①</u>【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 ・運指やアーティキュレーションによる奏法の違いを確認する。 ・パートごとに分かれ、教え合いながら練習する。	音色、旋律、テクスチャ（各声部の役割と全体の響きとの関わり）に関心をもち、曲想を生かした音楽表現を創意工夫して演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察、ワークシート）
3 ・ 4 （本時）	◆音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫しながらグループで演奏する。 ○各パートの役割と全体の響きとの関わりを感じ取りながら三つのパートを合わせて演奏する。 ・グループに分かれ、三つのパートの役割を生かしながら演奏する。 <u>発問の工夫①</u>【知覚・感受を結び付ける発問】 ○「星の世界」の曲想を生かした表現を創意工夫する。 ・いくつかのグループの演奏を聴き、よさを全体で共有する。 <u>発問の工夫②</u>【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・グループの演奏をよりよくするためにはどのようにしたらよいか考え、自分の意見をワークシートに書き、個人で演奏の仕方を創意工夫する。 <u>対話場面の工夫①</u>【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 <u>対話場面の工夫③</u>【試行錯誤・省察】 ・各自の考えや演奏を共有し、グループで演奏の仕方を創意工夫する。 <u>対話場面の工夫②</u>【対話目的の明示】 <u>対話場面の工夫③</u>【試行錯誤・省察】	音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。【創－①】（観察、ワークシート）
5	◆曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能や、全体の響きや各パートの音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏する。 ○思いや意図をもって創意工夫しながら、必要な技能を身に付けて「星の世界」を演奏する。 ・思いや意図が実現できているか確認しながら、グループごとに演奏を発表する。 ・各グループのよい点や創意工夫されていた点を全体で共有する。 ○題材における学習を振り返る。 ・全体発表を基に自分の考えを見直し、学習全体を振り返る。音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）や曲想などと自己のイメージとの関わりに触れながら、自ら学習を価値付ける。 <u>発問の工夫②</u>【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 <u>対話場面の工夫③</u>【試行錯誤・省察】	曲想を生かした音楽表現をするために必要な息の使い方、身体の使い方、運指などの技能を身に付けて演奏している。【技－①】（観察、演奏、ワークシート） 全体の響きや各パートの音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。【技－②】（観察、演奏）

ケ 本時（全5時間中の第4時間目）

○ 本時の目標

曲想を味わい、各パートの役割と全体の響きとの関わりを感じ取りながら、グループで演奏する。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 <u>指導の工夫</u>	評価規準（評価方法）
導入 （10分）	○前時までを振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 ・「星の世界」を全体で演奏する。 ・本時の目標を各自で設定する。		
展開 （30分）	○曲想を生かした表現をグループで創意工夫する。 ・いくつかのグループの演奏を聴き、よさを全体で共有する。 ・グループの演奏をよりよくするためにはどのようにしたらよいか考え、自分の意見をワークシートに書き、個人で演奏の仕方を創意工夫する。 ・各自の考えや演奏を共有し、グループで演奏の仕方を創意工夫する。 ※ ここで想定される生徒の対話的な学びの詳細については、「本時で期待する対話的な学びの姿の例」を参照のこと。	<u>発問の工夫②</u> 【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・「他のグループは、どのようなイメージを基に、何をどのように工夫をしているか、探しながら聴きましょう。」 <u>対話場面の工夫①</u> 【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 <u>対話場面の工夫③</u> 【試行錯誤・省察】 ・自分の考えがもてない生徒や、具体的な創意工夫が考えられない生徒に対し、実態に応じて個別に支援を行う。 <u>対話場面の工夫②</u> 【対話目的の明示】 <u>対話場面の工夫③</u> 【試行錯誤・省察】 ・必要なグループには、音色、旋律、テクスチュアの表現について助言する。	音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチュア）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。【創－①】（観察、ワークシート） 《評価のポイント》 A：知覚・感受したことを基に、曲想とイメージとの関わりについて考えながら、何度も奏法やテクスチュアを工夫している。 B：知覚・感受したことを基に、何度も奏法やテクスチュアを工夫している。 《Cと判断される生徒への手だて》 知覚・感受したことを確認しながら、具体的な創意工夫を提示して選ばせ、活動できるように働き掛ける。
まとめ （10分）	○本時の振り返りを行う。 ・全員で演奏し、本時の目標を振り返り、ワークシートにまとめる。	<u>対話場面の工夫③</u> 【試行錯誤・省察】 ・次時のグループ発表に生かせるようなまとめを行うよう助言する。	

○ 本時で期待する対話的な学びの姿の例

(個人の考えをもち、各自で創意工夫しながら練習してから)

生徒A「さっき、他のグループで、息の速さを全員でそろえるっていうのがあったよね。柔らかい音がこの曲の感じに合ってた感じがしたから、それで自分は練習したんだけど、うちのグループもやってみない？」

生徒B「やってみようか。」

(演奏)

生徒C「息の速さをどこでどう合わせるのか決めてからやらないと、よく分からないね。」

生徒A「このぐらいじゃない？(吹く)」

生徒B「全部そのぐらいの息のスピード？」

生徒A「たぶん。もう一回、みんなでやってみよう。」

(演奏)

生徒C「違うんじゃない？音の低いところはさっきの柔らかい息で雰囲気合ってるけど、音の高いところは、柔らかい息だとメロディーのヤマがつくれないと思うけど。さっき、自分は個人の時間にそんなふう練習した。」

生徒A「えー、そうかな。今のもよかったと思うけど。」

生徒B「じゃ、高い音はもう少し息のスピード上げて、もう一回やってみようよ。」

(演奏)

生徒C「やっぱりこっちがいい。」

生徒A「さっきの方がいいよ。」

生徒B「じゃ、もう一回やってみるか。」

(演奏)

生徒B「やっぱり高い音は少し冷たい息のほうがいいんじゃない？」

生徒A「そうかもしれない。」

生徒C「でも、高い音の息のスピードが合っていないね。やりすぎると汚くて曲に合わない感じがするから、このぐらいでどう？(吹く)」

生徒A「じゃ、それぐらいでもう一回。」

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・教員が、教材研究に基づき、生徒の思考に沿った発問計画をあらかじめ策定し、実際に発問を行うことで、生徒は、見通しをもって学習を進めることができた。具体的な思考の枠組みを示すことで、生徒の対話を活性化することができた。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・個人の考えをもち、グループで試した後に、再び個人の考えを再考する時間をとったことで、生徒が自分の学習を見つめ直して価値付け、次の学習に生かそうとする態度を育むことができた。
- ・個人の考えをもつ時間を設定する際、限られた時間で、全ての生徒が根拠を基に考えをもてるよう、生徒の実態に応じた手だてを準備しておく必要があった。一方で、はじめは知覚・感受を根拠に自分の考えをまとめられなかった生徒も、グループで学習することで、少しずつ考えをもてたり深めたりすることができている様子も見られた。

(4) 実践事例 4

ア 題材名 構成を工夫してボイスアンサンブル曲をつくろう（第 1 学年）

イ 題材の目標

- ・音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）と、表したいイメージとを関わらせて、創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組み、自分にとっての学習の価値を見いだす。
- ・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャ）や要素同士の関連、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する。
- ・音のつながり方の特徴（リズム）、音の重なり方の特徴（テクスチャ）、声の特徴（音色）及び構成上の特徴（反復、変化）と、表したいイメージとの関わりについて理解するとともに、創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくるために必要な、課題や条件に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付ける。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】音のつながり方の特徴（リズム）、音の重なり方の特徴（テクスチャ）、声の特徴（音色）及び構成上の特徴（反復、変化）と、表したいイメージとの関わりについて理解する力 ○【技能】創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくるために必要な、課題や条件に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能	○音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャ）や要素同士の関連、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫する力	○音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）と、表したいイメージとを関わらせて、創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度

エ 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）との関連

【A表現】(3) ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。 イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。 〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕 音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 表したいイメージと声の音色との関わりに関心をもって、ボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 ② 音色、リズム、テクスチュア、構成（反復、変化）と、表したいイメージとを関わらせて、創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組み、自分にとっての学習の価値を見いだそうとしている。	① 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチュア）や要素同士の関連、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。	① 創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくるために必要な、課題や条件に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて創作している。

カ 指導観

本題材では、既習事項を生かして、音楽を形づくっている要素と表したいイメージとを関わらせて、3パートのボイスアンサンブル曲「サラダの音楽」（4分の4拍子、16小節）を創作する学習を行う。音楽の仕組みを生かしながら、主体的・協働的に試行錯誤して創作する喜びや楽しさを生徒に味わわせたいと考え、本題材を設定した。

本題材では、生徒たちが創作の過程で、必要な知識・技能を得たり生かしたりできるよう、あえて知覚・感受の場面を中間発表の後に位置付けた。それにより、生徒たちが、音楽的な見方・考え方を働かせて、対話的に、他グループの発表から学んだ様々な表現方法を自らの音楽表現に生かす学習ができると考えた。

キ 本題材における具体的な指導の工夫

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・ 中間発表の場面で、いくつかのグループの工夫を共有する際に、ユニゾンやソロ、トゥッティの活用などの音楽的な特徴を確認し、それらの工夫から「どんな感じがしましたか。どんな場面で用いると効果的だと思いますか。」と発問することで、知覚・感受したものと具体的な表現の工夫とを結び付ける。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・ ワークシートを用いて個人の意見を明確にした上で、グループで対話的に試行錯誤する場面を設ける。
- ・ 中間発表の際、「音と音との重なりがどうなっているか」等をポイントに聴くよう指示し、対話的に試行錯誤する場面の見通しをもたせる。
- ・ 対話的に試行錯誤する場面や、自己内対話をしながら省察する場面の時間を十分に確保し、対話的な学びが音楽表現の深まりにつながるよう支援する。

ク 題材の指導計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 指導の工夫	評価規準（評価方法）
1	◆音楽を形づくっている要素と表したいイメージに着目し、それらを関わらせてボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組む。 ○学習の見通しをもつ。 ・「野菜の気持ち」を聴き、ボイスアンサンブル曲のイメージをもつ。 ・「サラダを盛り付け、食べる音楽」をつくることを理解する。 ○「サラダを盛り付ける音楽」をつくる。 ・3人グループで、どのようなサラダにするか、イメージを話し合う。 対話場面の工夫②【対話目的の明示】 ・自分の担当する言葉を色々なリズムで表現する。 ・グループで「サラダを盛り付ける音楽」をつくる。 ・本時の振り返りをワークシートに記入する。	表したいイメージと声の音色との関わりに関心をもって、ボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（ワークシート・観察）
2 (本時)	◆音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながらボイスアンサンブル曲をつくる活動を通して、思いや意図をもって創意工夫する。 ○表したいイメージと音の重なり方や反復、変化などの構成上との関わりについて理解する。 ・「サラダを盛り付ける音楽」の中間発表をする。 ・発表したグループの演奏や教員の作品例から、反復や変化、様々な音の重ね方を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。 発問の工夫①【知覚・感受を結び付ける発問】 ○創意工夫しながら「サラダの音楽」をつくる。 ・知覚・感受したことを基に、班の音楽を改善するためにはどう創意工夫したらよいか、自己の意見をワークシートに記入する。 発問の工夫②【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 対話場面の工夫①【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 ・グループで創意工夫を重ねる。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャ）や要素同士の関連、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。【創－①】（ワークシート・観察）
3	◆音楽を形づくっている要素と表したいイメージに着目し、それらを関わらせてボイスアンサンブル曲をつくる学習を通して、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の組合せなどの技能を身に付けて創作し、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする。 ○班ごとに音楽を完成させる。 ・創意工夫しながら、「サラダを食べる音楽」をつくる。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ○発表する。 ・工夫した点を説明してから演奏を発表し、各班の良かった点、創意工夫されていた点を共有する。 対話場面の工夫③【試行錯誤・省察】 ○学習を振り返り、学びを価値付ける。 ・ボイスアンサンブル曲づくりの学習を通して学んだことをまとめる。	創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくるために必要な、課題や条件に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて創作している。【技－①】（観察・作品） 音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）と、表したいイメージとを関わらせて、創意工夫しながらボイスアンサンブル曲をつくる学習に主体的・協働的に取り組み、自分にとっての学習の価値を見いだそうとしている。【関－②】（ワークシート・観察）

ケ 本時（全3時間中の第2時間目）

○ 本時の目標

音色、リズム、テクスチャ、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながらボイスアンサンブル曲をつくる活動を通して、思いや意図をもって創意工夫する。

○ 本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 <u>指導の工夫</u>	評価規準（評価方法）
導入 （10分）	○本時の学習の見通しをもつ。 ・班ごとに「サラダを盛り付ける音楽」を振り返る。 ・本時のねらいを知り、自己到達目標をワークシートに記入する。		
展開 （35分）	○表したいイメージと音の重なり方や反復、変化などの構成上との関わりについて理解する。 ・3班程度、「サラダを盛り付ける音楽」を中間発表する。 ・発表したグループの演奏から、反復や変化、様々な音の重ね方を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。 ・知覚・感受したことをもとに、班の音楽を改善するための工夫について、自己の意見をワークシートに記入する。 ○さらに創意工夫を重ねて、サラダの音楽をつくる。 ・グループで創意工夫を重ねる。 ※ ここで想定される生徒の対話的な学びの詳細については、「本時で期待する対話的な学びの姿の例」を参照のこと。 ・自己到達目標を再確認する。	<u>発問の工夫①</u> 【知覚・感受を結び付ける発問】 ・「他の班の演奏を聴いて工夫されている点を見付けましょう。」 ・各班の発表から、リズムの反復や重ね方の工夫などを価値付け、積極的に活用するよう助言する。 <u>発問の工夫②</u> 【音や音楽を自己のイメージや感情等と関連付ける発問】 ・「音楽を形づくっている要素や構成の工夫と、それが生み出す感じを生かして、自分たちの作品をもう一度改善してみましょう。そのために、まずは個人で改善策を考えましょう。」 <u>対話場面の工夫①</u> 【知覚・感受を基に、個人の意見をもつ】 <u>対話場面の工夫③</u> 【試行錯誤・省察】 ・「班の人たちで意見を出し合い、実際に音で試して曲を完成させていきましょう。」	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャ）や要素同士の関連、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、音楽表現を創意工夫している。【創一①】（ワークシート・観察） 《評価のポイント》 A：イメージに合った音楽をつくるために、思いや意図をもってテクスチャ及び構成（反復、変化）を創意工夫している。 B：イメージに合った音楽をつくるために、思いや意図をもってテクスチャ又は構成（反復、変化）を創意工夫している。 《Cと判断される生徒への手だて》 テクスチャ又は構成（反復、変化）の具体的な創意工夫を提示し、活動できるように働き掛ける。

まとめ (5分)	○本時の振り返りを行う。 ・どのような点を工夫したのか、ワークシートに記入する。 ・本時の振り返りをワークシートに記入する。		
-------------	--	--	--

○ 本時で期待される対話的な学びの姿の例

生徒A「それぞれの野菜が際立つようにしたい！」
 生徒B「じゃあ、誰かが言ってる時は他のパートは休みにして、追いかけっこみたいにする？」
 生徒C「いいね。そのあと、みんなで一緒に言ったら混ぜ合わせてる感じにならない？」
 生徒A「いいね。2段目はどうする？」
 生徒B「繰り返す？」
 生徒C「同じだとつまんないよね。」
 生徒A「早く食べたいっていう感じで、リズムを細かくするのはどう？」
 生徒B「いいね。完成した場面は、一体感を出すために、みんなで言葉をそろえようよ。」
 生徒C「面白い！そうしよう。」

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫】

- ・知覚・感受した後に自己の意見をもつ場面を設定したことで、最初は思いや意図をもてなかった生徒も、自分の考えをもって音楽表現を創意工夫することができるようになった。
- ・発問によって、生徒に見通しをもたせ、多様な考えを引き出すことができた。一方で、生徒の思考を支援しようとするあまり、必要以上に生徒の選択肢を狭めることのないように留意しながら発問計画を策定することが課題である。

【対話的に学ぶ場面設定の工夫】

- ・一人一人が意見をもった後にグループで対話する時間を設定したことにより、全員が話し合いに参加することができた。
- ・生徒同士の対話の場面で、対話の目的を明確に示すことで、意見表明だけにとどまることなく、音や音楽を伴って音楽表現を創意工夫することができていた。

Ⅵ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫

本研究では、表現領域における対話的な学びの場面で、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるよう、二種類の発問と、表現の工夫や表現の技能とを結び付けて吟味し、題材を通して、意図的・計画的に発問を重ねた。それにより、対話の内容を音楽面に焦点化するとともに、対話の中で生徒が音楽的な見方・考え方を十分に働かせられるように支援した。

検証授業においては、音楽を根拠に対話的に学ぶことを発問によって伝えたことで、話し合うべき内容が明確になり、生徒が、知覚・感受と自己のイメージを関わらせながら、積極的にグループで表現の創意工夫に取り組む姿が見られた。また、発問により具体的な思考の枠組みを示すことで、生徒に学習の見通しをもたせて、対話的な学びを活性化させ

ることができ、主体的な学びにもつなげることができた。

(2) 対話的に学ぶ場面設定の工夫

本研究では、対話的な学びの場面設定を工夫し、知覚・感受を基に個人の意見をもつ場面を設定するとともに、対話の目的を明示し、音楽表現を試行錯誤したり省察したりする場面を設定した。それにより、対話的な学びが音楽表現の深まりに結び付くよう支援を行った。

検証授業においては、グループ学習の前に個人で考える時間を設定することで、生徒一人一人が課題に対して自分の考えをもつことができ、個人の考えを基に対話的な学びに参加することができた。また、対話の目的を明確に示すことで、意見表明にとどまることなく、音や音楽を伴いながら音楽表現を創意工夫する姿が見られた。板書やプリントを活用して対話の目的を明確化したり、話し合いの時間を明示したりすることで、音楽の活動時間の確保にもつなげることができた。さらに、試行錯誤したり省察したりする場面の設定により、音楽表現の深まりが明確に表れ、生徒自身が学びの意味に気付くことができた。

以上の結果から、本研究で提案した手だては、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の充実に資するものであり、授業改善につながる有効な手だてであったと言える。

2 研究の課題

(1) 音楽的な見方・考え方を働かせて対話的に学ぶための発問の工夫

グループ学習中の教員の支援として、生徒の実態に応じた補助発問や助言等についても、本研究の仮説に基づいて準備しておく必要があった。その際には、生徒の思考を支援しようとするあまり、必要以上に生徒の選択肢を狭めることのないように留意する必要がある。

また、本研究では、表現領域に特化して具体的な手だてを提案したが、発問の工夫については鑑賞領域における具体的な手だてとしても有効であると考えられる。実際に検証することを今後の課題としたい。

(2) 対話的に学ぶ場面設定の工夫

特に、個人の考えをもたせる場面で、限られた時間で、全ての生徒が音楽的な根拠を基に考えをもつことができるよう、生徒の実態に応じた手だてを準備しておく必要があった。

また、本研究では場面設定に焦点化して研究を進めたが、研究を進める中で、グループ学習を行う必然性のもたせ方やグループの人数、編成方法、役割分担についても繰り返し議論がなされた。生徒全員が対話的な学習に参加できるよう、場面設定とグループの人数等を関連させて授業改善を行う必要がある。

さらに、研究を進める中で、対話的な学習を見取るためには、ループリックによる評価がふさわしいのではないかと議論もなされた。指導の工夫だけではなく、評価の工夫を行うことが一層の授業改善につながると考えられるため、今後の課題である。

平成 30 年度 教育研究員名簿

中学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
渋谷区立上原中学校	教 諭	今 井 由 喜
足立区立蒲原中学校	教 諭	鈴 木 景 子
江戸川区立葛西中学校	主任教諭	◎田 中 愛
江戸川区立春江中学校	教 諭	中 村 麻 里
西東京市立田無第二中学校	主任教諭	桐 山 友布子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事 澁谷 創平

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
中学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849
印刷会社 康印刷株式会社